

動物

の

診察室

から

〇 36 〇

昨年からは、朝晩通っているシロちゃん



くらし

ダックスフントのポボちゃんは15歳です。今までに大きな病気もなくすごしてきましたが、9月に入り2日くらい前から、食欲がなくなってきたとのことで、お母さんがポボちゃんを連れて来院されました。

血液検査の結果、急性の腎不全ですぐに入院し点滴が始まりましたが、状態はかなり悪く生命の危険があります。夕方お母さんに病院へ来ていた

あげることができないこと、しかし、朝から夕方までの治療ではほとんど回復の見込みがないことを説明しました。

お母さんはその夜、家に連れて帰るか、そのまま病院で治療するかで悩みましたが、少しでも可能性があるならその日は点滴を続けることを選択

入院中なのに家で声が

不思議な力

だき今後の治療を話し合いました。

ポボちゃんは急性の腎不全で、治療は点滴をして尿量を増やしてやることですが、入院治療にな

しました。そしてその日の夕方、点滴を受けているポボちゃんと、2時間ほど一緒にいてから帰宅されました。

眠を取って午前6時半に見回ったときにはポボちゃんは息を引き取ったのです。

ポボちゃんの状態から

死後そう時間がたつてい

ません。すぐにお母さん

に電話をしましたが、お

母さんは落ち着いて「そ

うですか、ポボちゃん死

んでしまいましたか。先

生、さつき女関でポボち

やんのワンワンって鳴く

声でしたのですよ。ポボ

ちゃんは年を取って何で

も分かるようになってい

ました。家に寄ってから

行ったのですね」と言わ

れました。

動物を診察している

と、不思議なことがたく

さんあります。

動物の不思議です。

昨年6月にコラムに書いた猫のシロちゃんは、今も毎日病院へ通っています。慢性の腎炎、肝炎で、余命は1年くらいと

考えていまし

たが、治療を

始めてからも

う4年以上た

ちます。年は20歳になり

ました。お母さんが「シ

ーちゃん、がんばってね

！」と励ましてきたので

シロちゃんも、「僕が

ばるにゃん」とがんばっ

ています。

お母さんの愛にこたえ

てがんばっているシロち

ゃん、天国へ行く前にお

家へ寄ってお母さんにお

別れをしたポボちゃん、

動物の不思議です。